

コミュニティ・スクールだより

第37号

名張市教育委員会事務局発行
令和5（2023）年 2月28日

名張市小中一貫コミュニティ・スクール 推進協議会 開催！

【第1回小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会】

キーワードは「当事者意識」



令和4年11月1日（火）、第1回小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会（以下、協議会）が開催されました。この協議会は、地域づくり代表、保護者代表、中学校区代表校長、教頭代表、教職員代表、事務局職員で構成され、各学校の取組の進捗状況や課題を共有し、今後の推進や方向性について検討する目的で開催しています。

まず、コミュニティ・スクール（以下、CS）と小中一貫教育の進捗状況について、事務局からの報告後があった後、2グループに分かれて、熟議を行いました。多くの建設的な意見が出される中で、子どもも保護者も地域も、「お客さん」にならない（しない）ことが重要であり、関わる人々の当事者意識をいかにして高めていくかが今後の課題であると提起されました。また、見える化された年間の活動予定を、学校、地域、保護者の三者が共有することで、計画的な活動につながり、さらに担当者（組織）を明確にすることで、責任感が高まるとの意見が出されました。あわせて、関わった取組が子どもたちの成長にどのようにつながっているかが明記されると、関わった者の自己有用感も高まるのではないかと意見も出されました。

【第2回小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会】



令和5年2月10日（金）、第2回協議会が開催されました。この協議会には、山口県地域連携教育エキスパートの木本育夫さんに名張市までお越しいただき、ご講演いただきました。木本さんには、これまでも名張市のCS推進に多くの助言をいただいております。今回CSを推進・充実させていくために必要なことについて、改めて教えていただきました。

1. 講演「未来を共に創る これからの学校と地域」

（山口県地域連携教育エキスパート 木本育夫さん）



名張市では市内全小中学校がCSとなって3年目となり、CSを基盤とした小中一貫教育に取り組んでいます。それぞれの学校によって、知恵を出し合い地域の特色をいかした取組を充実させています。しかしながら、進捗の状況や取組の深まりに温度差が見られることも事実です。そこで、今後の取組を充実させていくために、木本さんから上記テーマに基づいてご講演いただきました。

＜木本さんの言葉＞（一部抜粋）

- ・「小中を切らない。9年間という意識を持つ。」
- ・「CSは漢方薬のようなもの。じわじわ子どもに効いてくる。」
- ・「CSに完成形はない。まず、本年度を振り返り、課題を見つけ、来年度に繋いでいく。」
- ・「できることを、できる範囲で、一歩ずつ進める。まずは、楽しく！」
- ・「学校によって現状や課題等は違う。その学校らしさをいかす。」
- ・「教職員の異動に左右されない学校と地域の関係をつくる。」
- ・「地域、保護者の意見が届きやすい仕組みづくりが必要。」
- ・「学校運営協議会に至るまでのコミュニケーションを大切にする。」

2. グループで討議

木本さんの講演を受けて、「CSをさらに推進・充実させるために大切にしたいこと」～すべての関係者の視点から～というテーマで、グループ討議を行いました。出された意見の一部を紹介します。



＜討議で出された意見＞（一部抜粋）

- ・「中学校区で、めざす子ども像、校区像を共有する。」
- ・「先生方の思いをもっと知って、共に進んでいきたい。」
- ・「これから色々なことができそうで、わくわくする。」
- ・「無理せず、楽しく取り組んでいきたい。」
- ・「子どもの変容を周囲が共有することが大切だ。」
- ・「当事者意識を今後も高めていく必要がある。」
- ・「地域学校協働活動推進員の設置が必要だ。」

3. 西山教育長からのメッセージ



協議会閉会にあたり、西山教育長よりメッセージを頂戴しました。

- ・「伝えていただいたキーワードを自分事として理解し、自分の言葉で語ることを、そして行動に結び付けていく。」
- ・「9年間の学びと育ちを意識し計画表を作っているか？」
- ・「苦しさの中にも、楽しいと感じることを大切に。」
- ・「絶えず耕し続け、新しい空気を入れる。そこに、根は育つ！」

YouTube限定配信

協議会の様子はYouTubeを通じて、教職員及びコミュニティ・スクールに関わる皆様を対象として、**限定配信**します。詳細は別途、お知らせいたします。ぜひ、ご覧ください！

